

昨年度は雨天で中止された東明会主催の「**東部地区クリーン運動**」が今年度は好天に恵まれ、実施されました。中学生も部活動大会等の用事のない子は出席をしました。

28ある通学団の集合場所で、まずは開会セレモニーがありました。その中で各地区の団長の中学生が「**誓いの言葉**」を述べました。しっかりとできていたでしょうか。私が見に行った地区では、堂々と大勢の前で話す姿があり、ほっとしました。

町内会長さんやP T A、子ども会の役員さん方が中心となった運営されていました。小学生や小学校の先生もみえていました。

1時間以上地区を回りながら、ごみ拾いを中心とした清掃活動を行いました。地区の方からは、「**若い子とあいさつをするのは気持ちがいいね**」などの声をいただきましたし、**小学校の先生が中学生をほめ、中学の先生が小学生をほめる姿もあり**、とても温もりを感じました。たいへん意味のある活動です。

小学生から大人までこれほど大勢が一堂に会して、住んでいる地区の清掃活動をするところがほかにあるでしょうか。この東部地区ならではの活動ではないでしょうか。

「**地域の子どもたちは地域で育てる**」、これが日本の良き伝統でしたが、今は核家族化や少子化などの影響もあり、伝統行事が減り、昔ながらの地区コミュニティが崩れつつあります。そんな中で、高齢者や異年齢の子どもが集まり、地区の清掃活動を通して交流する機会があることはたいへん貴重で価値のあることだとしみじみ思いました。

P T Aの方と中学生や教職員が触れ合う活動としては、**年2回の資源回収**があります。中学校で実施している学校がどんどん減っていく中で、本校では大切な活動として位置づけています。ほかにも、夏休みにP T A奉仕活動を実施し、P T Aさんの力を借りて、校舎の草刈りをしていただき、出校日に生徒がその草を集める作業をしています。



地域の大人の背中を見て子どもは育っています。